

日露投資フォーラム分科会（2月28日）での発言

森中小三郎　ロシア NIS 貿易会副会長
住友商事　特別顧問

ロシア NIS 貿易会の副会長を務めております森中でございます。この場をお借りして一言述べさせていただきます。昨年の日ロ貿易は速報値では往復で一昨年の実績を上回る 137 億ドルとなり、新記録を達成しましたがそれでもまだ両国の潜在力を汲み尽くしたとは言い難いレベルであります。ロシアとアジア諸国の取引では中ロ取引が最大で一昨年の実績は約 300 億ドルでありました。私共と致しましては中期的には日ロ貿易の規模もそのレベルくらいまで拡大したいと思っており、その実現のためには日本企業のロシアでの更なる事業進出が必要と考えております。

既にロシア側からの発表の中でロシアにおける投資環境が整備されつつあるとの説明がありましたが、投資家にとっては法制整備、税恩典などの特典付与などは勿論魅力的ではあるものの、それ以外の重要な要素であるインフラ整備の重要性につき、触れたいと思います。

現在ロシアで資源開発を進める上では鉄道、港湾、空港、道路、発電、通信などのインフラの老朽化が大きなネックになっていますが、一般投資案件でも同様の問題が存在しております。これらインフラは原料輸送、製品生産、製品輸送など全ての工程に関わってくるものでどの要素が欠けていても円滑な事業は成立致しません。また進出企業だけにインフラ整備を任せるのは技術的にも採算的にも無理なケースが多いのでその点をご理解頂き、連邦または地方政府におかれては進出企業と協力の上、インフラ整備を実施頂きたいことをまずは強調したいと思います。

また、インフラを建設すればそれで全てが解決する訳ではなく、インフラ自体がスムーズに機能することが重要であります。その観点で連邦または地方政府にインフラのスムーズな運営が行なわれるよう、グリップを利かせて頂きたいと考えます。例えば極東地域の港湾はロシアの複数の民間企業が分割して運営しておりますが、太平洋パイプラインプロジェクトなどの大型案件に関わる資源輸送を円滑に実施するためにも連邦または地方政府により深く港湾の管理、運営に関わっていただきたいと考えております。ロシアは豊富な資源、良質な人材を抱えておりますが、肝心のインフラの整備が十分でありませんと投資家は他市場に逃げてしまう可能性が高いことを改めてご理解頂きたいと思えます。尚、日本企業はインフラ整備の分野で世界で多くの経験を積んでおり、ロシアに協力出来る部分がある筈ですので必要に応じ、ロシア側から具体的な引き合いを出して頂ければと

思います。

また、ロシアは最近資源エネルギー分野を中心に戦略分野における国家管理を強化する方針を打ち出しております。ロシアが豊富な資源をバックにした所謂「資源ナショナリズム」政策を押し進めていく方針であるとは当方は認識しておりませんが、G8の一員であり、大国ロシアは外国との関係においては常に対等な立場で透明性のある対応をしていただく必要があると考えます。昨年末に懸案であったサハリン2問題は解決をみた訳ですが、外国投資家にとっては事業を開始した後に出資比率、金額などの重要条件の見直しを余儀なくさせられる可能性があるのでは投資意欲が減退してしまうことを懸念するものです。その点でロシアにおける戦略分野の定義を明確にしていただければ投資家にとってロシアへの投資戦略を策定しやすくなると考えます。

最後にロシアの産業振興につき、一言述べさせていただきます。最近、ロシア政府は資源の豊富な極東、シベリアのインフラ整備の重要性を再認識しているようでこれら地域に対する予算配分が増えています。一方、プーチン大統領は「天然資源への過度の依存」からの脱却を図ることを目指しており、経済の好調な今の時期に産業の多角化を図り、加工度を上げた付加価値の高い製品の輸出増大を図ろうとしております。その観点で極東、シベリアにおける産業振興が一つの重要課題として浮かび上がって参りますが、例えば太平洋パイプラインが極東まで延びてきますと、極東における製油所、石油化学製品プラントの建設などの必要性が高まります。日本はプラント建設用の資機材供給、ファイナンス及び技術供与の面で協力出来る可能性があるだけでなく、プラントで生産される石油製品、石油化学製品の販売力及びMARKETING 能力もありますので是非活用頂きたいと思っております。

私共としましては日本向けのみならず、アセアン諸国及びインド、ブラジルなどを絡めた多国間協力プロジェクトとしての取り組みも検討してゆきたいと考えますので今後ともロシアと緊密に意見交換を行いたいと思いますのでロシア側のご協力を宜しくお願いしたい次第です。

以 上